

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣  
医  
の  
カ  
ル  
テ



21



マイム犬猫病院長

(射水市小島)

長井 崇典

昨年1年間を振り返ると、尿のトラブルに悩まれる犬と猫の患者さんが非常に多く来院されました。そこで今回は、尿石症を取り上げます。

犬や猫を飼っていると「おしっこが近い」「繰り返し排尿姿勢をとる」「尿が赤い」などの症状に遭遇することがあります。これらの原因の多くは、結石が尿路系の各場所（腎臓、尿管、膀胱、尿道など）に存在するためです。結石は、臓器の中にできる石のように固い物質です。この結石が尿路系において何らかの症状を引き起こすのが「尿石症」です。

犬と猫の尿石症



チワワの膀胱から抽出した尿石

頻尿や血尿に注意

石が粘膜に傷を付けると尿に血が混じり、結石自体が細菌の温床となり感染症を引き起こします。最も恐いのは、結石が尿道や尿管に詰まり、尿の排せつができなくなることです。こうなると急激に腎臓の機能が低下して尿毒症を引き起こし、しばしば死に至ります。尿石の多くは膀胱内に存在するため、頻尿や血尿など膀胱炎の症状

として現れてきます。ヒトと同様に激痛を伴う尿管結石になった場合は、かなりぐったりした状態に陥ることがあります。

尿石症の原因は、食事や飲み水による体内のミネラルのバランスの崩れ、尿のpH、遺伝的素因やストレスなど多岐にわたります。尿石症を診断するには、触診、尿検査、レントゲン検査、超音波検

結石を溶かすことが可能ですが、後者の場合は、手術で摘出する以外に除去する方法がありません。手術後は元気を回復しますが、再発率が高いため尿石のできやすい犬や猫は生涯を通して予防策を講じていく必要があります。例えば専用の尿石溶解食を継続することや、水分を多く含ませたフードを与えることなどに配慮するとよい

査などを組み合わせて行い、結石の種類や尿石が存在する部位を絞り込んでいきます。

犬と猫の尿石の多くは、ストルバイトかシュウ酸カルシウムのどちらかできています。前者の場合は、尿石溶解用の

食事を与え続けることで

写真がチワワの膀胱から抽出した尿石です。長径2センチ程度の大きな石を抱え、どんなに不快でつらい毎日であったことかと推察します。言葉を話せない犬や猫だからこそ、飼い主さんの日々のスキンシップや観察によって病気を早期に見出し、大切な命を守ってあげてほしいと強く思います。